

## 少女よ、君の翼は永遠なれ

17歳の少女は、何故かくも健気なのだろうかと思います。

女子ジャンプの高梨沙羅選手のコメントを聞いていると、何時も、周りへの目配り、気配りも出来ていて素晴らしいなあ、17歳の少女の発言とは思えないなあと感じていました。しかし、オリンピックという大舞台で4位に沈んだ後の彼女のコメントは、あの小さな肩に押しつぶさっていた重圧の大きさと期待に応えられなかった事への悔しさがひしひしと伝わって来て、感心するというより可哀そうにと思わずにはいられませんでした。

### 試合後の高梨選手のコメント

今、この舞台に自分が立てて、すごくいい経験をさせていただいたけど、今まで支えてくださった皆さんに感謝を伝えるためにこの舞台に来たので、そこでいい結果を出せなかったのが残念。自分では、やることは一緒なので、どの試合も変わらず挑んだつもりだったが、やはり（五輪は）どこか違うところがあるなと感じた。1回目も2回目も自分の納得行くジャンプができなかったのですごく残念。（原因は）メンタルの弱さだと思う。もっともっと強くなりたい。力のなさを実感させられた。この悔しさをバネに（次の五輪で）今度こそ感謝の気持ちを伝えられるようにしたい。（2月12日付北海道新聞）

高梨選手は、ワールドカップでは13戦10勝という、無類の強さを発揮してのソチ入りでした。この為、高梨選手は金メダルに最も近いところにいる、悪くてもメダルを逃す事はないだろうと、高梨選手に対するメダル獲得の期待は非常に大きなものがありました。

その事を一番強く感じていたのは、コメントを見ても分かる様に、他ならぬ高梨選手自身であったろうと思います。

高梨選手がメダルを逃した原因について、報道等では不利な追い風を受け、テレマークも入れられなかった事を上げています。屋外の競技ですから、風や雪等の悪条件に見舞われる事は仕方ない事です。高梨選手にしてみれば、そうした事は散々経験し、それでも勝ち続けて来た訳ですから、4年に1度のオリンピックという空気と「メダルは当然」という期待の大きさが、彼女を何時もの彼女でなくしてしまったのかも知れません。

特に、男子ジャンプのノーマルヒルで、日本人選手がメダルを取れなかったという事も、高梨選手に対する期待を増幅させてしまった様に思います。もしも、そこで誰かがメダルを取っていれば、彼女の重荷は、少しは軽くなった事でしょうし、もう少し、彼女には楽な試合運びをさせてあげたかったと思います。

メダルを獲得したのはドイツのカリーナ・フォクト選手です。初代女王の誕生に心からの拍手を贈ると共に、彼女は現在22歳という事ですから、現在17歳の高梨選手には、次のオリンピックでの活躍が大いに期待されます。

ワールドカップでの高梨選手の飛翔する姿を見ていると、彼女の両腕は、まるでサモトラケの二ヶの翼の様だと感じていました。

私は、これからも高梨選手が、あの小さな体をぴんと伸ばし、K点越えを目指して空気を引き裂く様に飛ぶ姿を見続けたいと思っています。

メダルを逃して悔し涙を流した高梨選手ですが、私達の期待に応えられなかった事に涙する必要はありません。君は、君自身の為に飛べば良いのです。

だから私は祈ります。君の翼は永遠なれと。(塾頭：吉田 洋一)